十三日　夕刊

# 磐城毎日新聞

本紙一ヶ月　金六十錢
郵税　金十五錢
一部賣　金三錢
廣告料一行　金六十錢
記事欄　金九十錢
場所指定一行　金一圓增
電話（平）七八六番
振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

健全なる娯樂娯樂といつて國民から笑ひを奪ひ去るやうなことがあつてはならぬ（西原龍夫）

## 閼伽井嵐

### 分け合ふ心

高木稻水

米の配給規定が改正になつたので各家庭ともうつかりしてゐると、すぐ御飯が足りなくなる。是が一週の斷食とか三ヶ月の減食ならどんなにしてでも我慢のしようもある。然るにこれは何日終る事やら見通しがつかぬ前途遼遠な問題なのだから問題は深刻である。台所を預る主婦は全く痩せる思ひで朝に夕に米の消費狀況に一喜一憂してゐる狀態である。親戚とか友人とかはたまに一緒になつて物を食つたり飲んだりする所に何ともいへぬ温かい感情が流れて親密さが增すものなのに現在はお互にそれも許されぬ子供が健康で食るやうに物を食ふことは親として心からの喜びであり乍らも一方ではお米の心配をしなければならん。「一片のパンを涙を以て分け合つて食べた事のない人間に本當の人生はわからない」と或本に書いてあるのを讀んだ事がある。本當の人間性の鍛錬はこの乏しい物資の中に生きぬかねばならん現代のやうな時に於てこそなし得る。考へやうに依つては現代は一番修養に都合の好い時代である。各家庭のいつわらぬ赤裸々な人格は現代が一番はつきりと姿を見せてくれるともいへる私はこの際金持も貧乏人もお互に物を分け合ふ氣持でやつてゆくならば不平などある筈はないと思ふ。いけないのはお互に自分だけ充分に食べよう。自分だけ豐かに物を得ようとする態度である。乏しい物を分け合ふ氣持！我々はそれを持ちたい。この意味に於て闇取引が新聞に現はれる事は、良心的な人間の心をどれだけ暗くするかわかぬ。

## 松尾芭蕉

鵜沼孝昌

世間では芭蕉翁といつてゐるけれど、そんなに長生した人ではない。次の小傳にある通り五十一才で歿してゐる。

芭蕉はもと伊賀の藤堂公の藩士にして、蟬吟公に仕へたが公早世後心機一轉、剃髮して漂泊的俳人となつたのである、芭蕉とは深川の草庵に入りて芭蕉を植ゑて其の號とすとある。芭蕉は千二三百の句を詠んでゐるが傑作は五十句位で若い桃青時代は名句はないといはれてゐる、例の有名な〃奥の細道〃の俳文は（西鶴や近松に比されてゐる）死する五年前にかいたものである

御紙に載つてゐる〃平の今昔〃中にあるもとの菩提院の句碑は今の廿三夜の突當りにあつて南に櫻北に柳があり其間に玉石を礎き上げた上にあつたもので私等が中學へ通ふ時間題になつた句である。それより私は腸心をもち東都留學中帝大圖書館で文政十年發刊の木版假名摺りの俳諧一葉集全九册を苦心して讀んだことがあつたが問題の〃西行の庵もあらん花の庭〃の句や〃芋洗ふ女西行ならば歌よまん〃の句は西行谷（美濃あたりの）で詠んだ句であつて今ではありません。また石城敎育會發行郷土史にのつてゐる〃陸奥の尼子の橋や稻の上〃の句もありまんでした、第一芭蕉は福島縣は中通り外は一歩も出てゐません御承知の通り俳諧一葉集には芭蕉の俳文章其の消息より一言一行すべて芭蕉に關する記録を網羅したものである私はその時この集よりぬきかきして小傳を作つたものが私の筐底より發見したから、次ぎに載せてみる。

松尾桃青、名は宗房正保元年伊賀國上野に生る、松尾與左衛門の二男なり、十七歳藤堂蟬吟公に仕ふ。寛文三年蟬吟公（三十歳で）早世乃ち家を出て京都北村季吟に學ぶ二十九歳江戸に來り杉風に寄居す。四十一才秋東都を發し東海道を經て故鄕伊賀に歸り、翌年二月伊賀を發し木曾路より甲州を經て再び江戸に來る。此年月を鹿島に見る、四十四才東海道より伊賀に歸る翌年伊勢參宮、芳野南都を見て須磨明石に出づ、木曾を經て姥捨の月を賞し三たび東都に來る四十六才東都を發し日光、白河（こゝで奥州行脚の風流序開きの句〃風流の初めや奥の田植歌〃と詠んだのである）仙台より松島に遊び高館（あの宏大して雄渾な句〃夏草やつはものどもの夢のあと〃）を經て象潟（出羽）へを通り、道を北陸にとる（越後の出雲崎より佐渡を見渡し詠んだ句は彼の全力を表はしてゐる、〃あら海や佐渡に横たふ天の川〃）越前美濃大和を過ぎ伊賀に歸る直ちに近江に來る翌年石山の西幻住庵に入る。四十八才伊賀にかへり京都に寓し冬のはじめ東都に來る。五十二才夏深川の草庵を捨て、上洛し京都近江の間を徘徊す、七月伊賀に歸り九月大阪に至る。同月病（胃病か）にかゝり元祿七年十月十二日大阪花屋に於て歿す。大凡二百五十年前遺骸を江洲義仲寺義仲の墓側に葬る。翁の經過せる國々は廿八ヶ國に渡つてゐる。

## 民間療法と藥草

野崎順

四五、せんぶり

（當藥）

本種は千度振り出しても尚苦いといふ意味である。（藥効）全草を健胃劑、虫下し、胎毒下し、腹痛（採集と用法）開花期に全草を採り風通しのよい所にて陰乾とする、一日量二三匁を煎用する、

四六、せんきう

（川芎）

支那原産の多年生草本であるが各地に栽培されてゐる、葉はせりに似て更に細裂し全草佳なる香氣を有す。（藥効）根莖を婦人血の道、逆上症、頭痛を治し氣塞ぎを開く要藥として鎭靜、鎭痙藥に用ひられる（採集）十一二月頃根を掘り陽乾となす。

### 後記

藥草は必ず効く。現在は分析上からも各々成分を研究されてその有効成分を證明されてゐるのである。然し、採集に當り植物を誤り類似植物を採集して効かぬと云ふ事になつて終る事が多いのである。以上四十餘種について書いて見たが、多忙の中より書いたので、その要を盡し得なかつたその點讀者諸子に相濟まない。種類に於ても大体氣のつく儘に書いたので全部を盡して居ない。

稿を終るに際し、實際採集利用せんとする御人は小生まで御來駕あられん事を望む。先頃より藥草指導を無料でいたし、藥草の鑑定、標本の縱覽、利用上についての參考の事柄等について御指導いたして居ります。又日曜日等は採集會も結構です喜んでこれに參加いたします、然し小生の奉仕的精神よりなして居るので一向遠慮はいりません（平市杉平二〇）

## 時事詠

新妻久滿夫選

（川中子）猪狩彌

配給の米をかこてど街人は子等のこぼせし飯は拾はず

盲目すると父に老婆にかく言はれ落ちしはとりぬ幼き時ゆ

みどり子の此の家にあり軒端にむつき干しつゝ降る雨あはれ

常ならぬ祖國うれひて大君のみこと遂げんとい征く君はも

## 異人劍法【2】

（禁無斷轉載上演上映）

車谷弘

下山望東畫

### 初嵐（二）

秋の日にぢつと温まるまで、眼をつぶつてはゐたものゝ、やつぱり眠れはしなかつた。新九郎はふいに跳ね起きると、

『厭な奴だ』

と呟いた。

無遠慮な横尾の言葉は、いら〳〵新九郎の痛いところに觸れてゐたのだ。

（やはり自分はとり亂してゐる）

そは〳〵と、まるで落着を失つてゐる自分の姿に新九郎は、やたらに腹が立つて來た。新九郎は焦々して思はず庭下駄をつゝかけると、そのまゝ明るい庭へ出た。

垣根をへだてゝ隣家の神谷家とは、庭つゞきだつた。低い柴垣の向ふには、初音の父が丹精こめた菊畑が見える、そこには白菊や黄菊の花が、つゝましく秋の陽を浴びて、清楚な美しさを誇つてゐるのだ、心なき秋の微風は、仄に菊の匂を運んでくる。その媚めかしい匂にも、やはり何か妬ましさがあつた。

新九郎はぢつと見た隨分古い菊畑だ。だが今日の家内のとり込みとは、凡そ無關係な風景だつた。江戸關口水道町の、さゝやかな構へにふさはしく、和やかな菊畑には花々がしんと靜もつて咲いてゐるだけだ。初音も父もやはり一つ構家中で新九郎の亡父とはわけても別懇であつたから菊畑にはいろ〳〵と幼い日の記憶もある。少年少女の夢のやうな思ひ出の、この菊畑は塚なのだ。新九郎の甘い夢はこの菊畑に咲いた花だ。

新九郎は柴垣に近づいて、歩いてはまた立停つた。

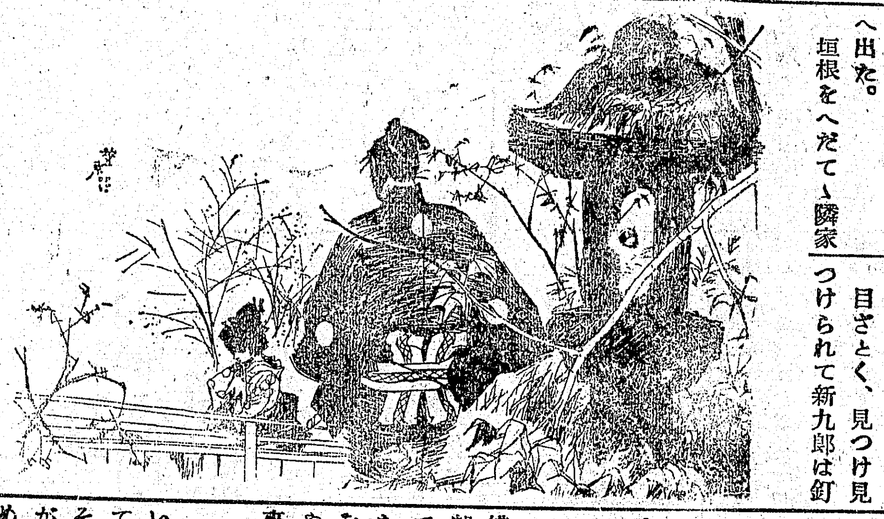
『あつ、これは……』

『まア、新九郎樣』

目ざとく、見つけ見つけられて新九郎は釘づけになつた。菊畑にしやがんでゐた初音が思ひがけなく垣根の向ふに、ゆらりと立上つたのである。

一家をあげての混雑に、とり殘されたやうな菊畑に、これも所在なささうにして、初音は菊をいぢつてゐた。明日はいよいよ婚禮の彼女も今が盛りの花である。

『お輿入は明日ださうで、お目出度う、その髮がよく似合ひます』



『まア、お恥しい』

初音はさつと紅くなつた。

『おからかひなすつては嫌でございます』

『なんの〳〵、初音さんの花嫁姿は、また一段と美しからう、早く見たい』

新九郎はいつもの微笑を浮べたが初音は恥しさうにうつむいたまゝであつた。

いつもならお互に柴垣まで凭り添ふ二人が同じところに、ぢつと佇んだまゝ動かなかつた。口までが何か氣輕に動けないと思ふと新九郎はさみしかつた、二人をへだてるこの垣根は、もう一生の存在になつた。

さも重たげな高島田や、チラと見える襟脚など、初音の典雅な美しさをみてゐると、新九郎は次第に物を云ふのがためらはれて來た

『初音、初音……』

座敷で、父の聲がした、

初音は救はれたやうにホッとして、

『御免遊ばして……』

憂ひのある眸に微笑をたゝへて會釋をすると、逃れるやうに初音の姿は障子に消えた、

會釋を返して、殘り惜しさうな眼で、新九郎はいつまでも見送つてゐた、すると閉された障子の中から、初音を中心にして一家の賑やかな笑ひ聲が聞えて來た、

『やつぱり出掛よう』

どうにもやり切れない氣持を、新九郎はもてあましてしまつた。そして竹内を訪ねた方が結局ラクだと思ひ定めた。

産科、婦人科
井坂醫院
（姙産婦入用）
平市田町　電五五九

土木建築
鐵道
船舶仲仕
三崎組
太田勝康
事務所　小名濱町日窯前
電話五〇番

ミクローゼ
醗酵する際に死滅し易い酵母と異り・ミクローゼの主成分である日本固有のビルツは・生存力が極めて強く・服用後・胃腸内でどんどん増殖し・強力な消化酵素を産生する特徴を有して居ります。――故に・効果は持續的・且つ强力であります。何よりの證據は・食慾が增し・快い便通が得られることです。
郵券十錢で・五日分六十錢の試服藥を急送す
星チエーンストア支部
全國各地著店に有
東京・五反田　星製藥株式會社　M9

外科一般、内臟外科
性病科、肛門病科
木村外科醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角）
電話三〇九番
▽入院隨需△

御會食に
御商談に
割烹
幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

新刊書籍
月刊雑誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

耳鼻咽喉科專門
入院隨意
病室完備
大和田醫院
平市南町　電話一七〇番

大の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目
電話三三八番

内臟外科
整形外科
レントゲン科
松村醫院外科部（平市南町）
松村外科
醫學博士　松村享

平病院（元共濟病院跡）
電話四一番
院主　醫學博士　鈴木定藏
内科、小兒科
レントゲン科
物理的療法科　院長　鈴木定藏
内臟一般外科
皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸
藥劑師部長　吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます
急患は此の限りにあらず

目前の御知らせ
漁船家屋其他
動産の移動
土木建築請負
鐵道船舶
仲仕請負
北村芳藏
小名濱町築港地內
御希望の方は一應御相談下さい

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町
鵜沼孝昌

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三丁
安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生（電九二五）
福島縣立代用精神病院
内務省指定
郡山腦病院
院長醫學博士　金礎五郎

乘合
貸切
馬車御案内
乘合區間平、夏井間、平發午前七時、午前九時、午後一時、午後四時の四回
貸切馬車
は新体制下に於ける乘り心地よき快適な仕立
運行は朝の六時から夜間は十時まで
料金市内七十五錢、市外四キロ一圓五十錢一キロを增す毎に一圓增
大河原トラック部
同　乘合馬車部
平市大町　電五七六

ガソリン
キカイ油
石油
輕油
測量器
製圖器
ハカリ
モノサシ
平石油共同配給所
關内正一商店
平市・電話16

だいこくやニュース
夏の訪れ
パナマ帽と
ムギワラ帽子
パナマ　1・60ヨリ…20圓
ムギワラ　1・00ヨリ…3・80
ヤング　1・20ヨリ…3・50
夏學生服陳列
夏の子供服陳列
夏の家庭服陳列
ブラースとワイシヤツ
平市　大黒屋

口腔衛生
口腔外科
矯正科
鈴木齒科醫院
小名濱町銀座通り

外科
内臟外科
肛門病科
皮膚科
泌尿器科
生殖器科
（脊髓癆及見習看護婦募集）
平市鍛冶町
白土醫院
電二七九

男女助手
徒弟募集
（委細面談）
理髮タイヨー
小名濱町登記所前

外科（内臟・整形）
内科
皮膚科
花柳病科
小名濱町仲町
石井醫院
電一八番

小兒科
内科
◎入院隨時◎
平市南町（電五五番）
醫學博士　酒井保
酒井醫院

齒科一般
口腔外科
石城郡草野村驛前
坂本齒科醫院
坂本惣次郎

軍服と國民服
御注文並に既製品
高島屋の洋服
平市二丁目通　電話三六八番

小名濱唯一の
味の店
おでん
小料理

味の店
寶來
御會食御商談に
御利用を……

# 翼賛運動に重點置き 活動體制急ぐ

## 平市は三部五班制實施か

平市青壯年隊は過般結成式を擧げたが隊長、副隊長、各分隊長を任命したのみで活動体となる本隊の部長及組織機構も完成せず待機の姿勢であるが過般開かれた翼賛會四市常務委員會でも『翼賛運動の重點には青壯年隊の活動に俟つ』と意見が一致し、今後の翼賛運動には最も期待をかけられてゐる處から平市も急速な機構整備を期し、目下柳沼主任が立案を進めつゝあり

本隊では工業、商業、農業の三部を置き、各部毎に庶務、企畫、調査、研究、訓練の五班（假稱）を置いて各々のその職場を擔當、翼賛運動の推進たらしむる根本方針は數日中に具体化する模樣である

# 増産奬勵金交附

## 團体で一反歩以上の耕作助成

學生、兒童、婦人團体で今後一反歩以上の未利用地を開發して食糧作物の栽培をする場合は農業報國聯盟福島支部（支部長知事）から反當り十圓以内の助成金が交付されるので平市では十二日各區内會長學校長、愛婦會、國婦會へこの利用を進めたが該當者は直接同支部へ申込れたいと

この助成金は隣組の婦人連が自給自足を目指して新たに一反歩以上を開墾耕作する時に極めて有利な方法でこれより助成金を利用する人々のために神谷農事試驗場に時節野菜、肥料などに就いてお話を聞いて見る

『先づ季節に入つたものでは大豆、さつま薯小豆、余蒔きうり等があります、而しこれは何れも苗の植つけを急がないと季節に入つてをりますから遲れます次に七月下旬頃から大根、ネギ更に八月に入つて白菜下旬頃から体菜、ほうれん草等があります

次に肥料ですがこれは難しい問題で土地にも依りますが一般家庭でしたら人糞、塵埃、木灰など適當にやれば良いと思ひますが……』

# 郷土兵喜ばす 慰問袋贈る

## 全市民の眞心・廿日發送

平市の郷土出身兵慰問袋は廿日發送する豫定で目下各國婦・愛婦、其の他婦人團体が協力して全戸から蒐めつゝあり十七日までに締切ることになつたが婦人團体の熱心な活動に依つて豫定數量を超過するものと見られ、全市民の誠心こもつた慰問品は第一線將兵を喜ばすものと市當局は發送準備を進めてゐる

# 前線慰問通信

☆★☆★☆★【18】☆★☆★☆★

## 部隊長涙の言葉に 慰問隊も感激

漢口より宜昌の途次

縣議　木村守江氏

この邊と宜昌との間の揚子江には西倶島三口倶島といふ二つの島があり、揚子江にはて三本の流れとなり西倶島には樹木や家屋が建てある、減水期にはこの島へ宜昌から歩いて行けるやうに陸つゞきであるとの事であるが今は可成增水した爲め立派に島の形をなしてゐる、こゝから直ぐ上流は急に川幅が峽くなり、兩岸には屹立した斷崖が續く流れは極めて急流である、所謂宜昌峽といはるゝのはこれから上流で、揚子江の水も四月頃の減水期には全く濁らぬ清流となるとのことである これが清流となつたらどんな風光を添へるだらうと想像される、馬上に敵狀を聽きながら宜昌峽を遠望す。

午後四時頃立花部隊より連絡ありトラック準備完了とのことと約十里の道を西方に進む、途中迄寶田大尉が迎ひに來てくれる、昭和十二年上海上陸以來幾多の戰闘に勇戰奮闘、今尚ほ健全で將兵を指揮し、多大の戰果を收めつゝある部隊の至寶的存在である、特に出征當時よりの深い因縁で次から次へと想出話が盡きぬ、土門嶺よりは道路が臨江溪の畔を通つてゐるので臨江溪左岸の激戰狀況の說明を聽きながら午後七時半頃部隊に到着す。

部隊の將校達は連日の慰問にお疲れだらう今日は早く風呂でも浴び休養をと好意を示してくれたがまだ太陽は相當高いので小林部隊を慰問することにした、先づこゝに來て嘗て宜昌戰闘に奮戰した故吉田平一軍醫大佐の御墓を訪ね小林部隊長並に幹部諸公と共に立派に造られた御墓に詣り永い間の勇戰奮闘の末散華せられしことの傷ましさを吊ひ部隊長より生前の奮闘振りを拜聽して在りし日を偲び約一時間に及んだ、その中に立花部隊長が御待ちとのことにて話を中途にして歸つたがまだ新しい墓標に故陸軍軍醫大佐正五位勳三等吉田平一之墓と墨痕鮮かに書れてあるのが何となく生々してゐるので物でも言ひさうに思へてならない幾度かこの墓標を振りかへりながら兵隊に案內されて部隊長の所に行つた

立花部隊では隊長始め本部の幹部諸士の心からなる野戰料理を御馳走になる、部隊長は典型的武人であつて寡言實行の人であり特に部隊長閣下よりの信望厚く部下將兵の信任も最大なるものである、郷土出身將兵も先に慈父の如き兩角部隊長あり、こゝにこの名部隊長をいたゞき幸運この上なしと喜ぶ、部隊長は吾等の慰問の言葉に對し飽迄謙遜して「郷土の將兵は强い。この强い兵隊を部下としてゐる爲めに私も勤まり戰果もあげ得るのだ、何卒御郷里の皆樣によろしく申傳へてくれ」と言ふ、而も眞劍にしてその言葉には涙さへ含まれるかと思つた、吾等一同は言葉もつげず暫くして辛じて部隊長の御健康と郷土出身將兵をよろしく御依頼すると述べた。

五月十八日快晴が續くので朝から暑い、汗は止め度もなく流れる午前八時馬の脊を借りて第一線を限なく廻るべく出發す、

酒井粂吉（大野村）大和田勘次郎（同）赤塚義男（同）佐藤禎助（四倉）近藤力（大野）船生千代之助（大野）山野邊一郎右衛門（大久）蛭田光雄（平丸トモ）四家清次（豐間）昆木內昇（上遠野）關勇（內郷）鈴木三男（廣野）蛭田保雄（上遠野）宇佐美鐵雄（浪江町）鈴木正一（內郷）高木庄松（磐崎）佐藤軍尉中尉（川俣）高橋中尉諸君に會つて本當に自分の元の部隊なので自分の家に來たやうな良い氣分になる、その中案內役の寶田大尉から次に行くといはれて約三千米位山道を攀り〇〇部隊を訪ね

宇佐美熊次（大浦）渡邊學（四倉）佐藤正八（原町）森房雄（駒ヶ嶺）藥谷八郎（三阪）富澤榮秋（金房村）鈴木六郎（玉川）若松俊男（八澤）鈴木正平（內郷）吉田貞雄（內郷村）山澤進一（福浦）三瓶義磨（川內）村上與市（磐崎）小泉吉弘（平市）和田幹雄（平）清水貞之（平）田名網欽一郎（平）紺野義肖（箕輪）町島吉造（赤井）山田晃治（大堀村）江口彌治（湯本）富田友治（小名濱）湊重夫（原町）江尻繁雄（飯野）駒田忠義（上岡）中野德藏（石神）杉田七郎（飯豐）佐々木金三郎（原町）瀨谷染之助（植田）大柳寅雄（湯本）

の諸君に面會して第一線に日夜の別なく敵と相對峙し特に住むべき家なく殆んと全部をその邊の立木を切つて造つた小屋に住ひ本の現地物資で暮らしてゐる御苦勞を謝し急坂をなす山路を二つ程越して龍泉舖東方高地の戰闘で有名な屋根形高地に登る。

# 小名濱町 電話架設

## 公益外望み薄し

本年の小名濱局新設電話申込數は七十二口で昨年の百十八口申込に對し四十六口の激減を見てゐる、然し昨年は十二口架設より無く本年は資材關係で更に三四割減と見られてゐるから公益關係で押へられ一般には殆んど行渡らぬ模樣である

# 慰問袋

平市第二十六區（月見町）第十隣組では十三日慰問袋一ケを代表川村武さんが市役所に寄託した

# 新いも出廻る

## 代用食見越し闇へ警告

代用食の馬鈴薯が出廻つて來た……二毛作馬鈴薯は先の出水で冠水したため幾分早めに市場に出廻り十二日平青果組合の取引は降雨に拘らず約百貫で一貫匁四十五錢であり最高小賣五十錢に對し小賣人は五錢の利潤となる、なほこゝ二、三日は降雨の關係から出廻りは減少豫想であり

一方小賣方面は公定百匁五錢であるが中には代用食として重寶がられる處から七八錢に買付けるものも相當あるらしくこれは主に生産者が直接消費者に販賣する場合であるから一般家庭ではお互高いお薯を買はず共に〃闇〃撲滅のため『最高五錢』を嚴守するやうにと同組合では語つてゐた

# 大森氏提案の 榮養國民食

## 一日の適量・三合三勺

四市の常務委員會は既報の如く去る十日福島市に開かれたが平市から提案した『市常會委員増員』の件は異議建言することになり、縣支部も承認したから近く區内會長全部指名されることになつた、大森委員提案の國民食問題は留保された

同氏提案の國民食問題は今回の飯米規正に依つて丙種に屬する者は一日二合五勺と制限されたが、實際的には三合三勺を適量とする、節米の趣旨に添ひ二合五勺で間に合せるとすれば一日八勺の不足に依る榮養を他から補給する必要があり、榮養價値の高い國民食を制定獻立表を作つて全縣民に供しては如何と云ふ主旨に依るもので今回の規正で一般に飯米不足を叫ばれてゐる際だけに各方面の注目を惹き、縣常務委員會も參考意見として取上げる模樣である

# 兒童蒐集の木灰

## 三校四回分で四百十五貫

## 肥料に悩む農家潤す

平市農會では舊市街地の三國民學校全兒童動員農家の金肥不足を援護する目的の下に既報の如く五月初めから『五の日』毎に木灰を蒐集してゐるが今月初旬まで

△五月中、五日、十五日、廿五日△六月五日

の四回に亘つて全兒童が一袋宛持寄つた木灰が合計四百十五貫の多數に上り、これ等は何れも市平窪農事實行組合へ分配されつゝあり農家を喜ばしてゐる、學校別の蒐集數は次の如く第四校（平窪）は直接各家庭が使用してゐる爲除外されてゐる

△第一校、百卅五貫（農園經營の爲僅少）△第二校、二百五貫△第三校、七十五貫（高等科無し）

右について市翼賛會柳沼主事は一般家庭の協力を要望次の如く語る

塵も積つて、と云ふ言葉をそのまゝ、一袋づゝの木灰も多數で蒐めるとこんな大きい數字になります金肥不足の時代に農村にとつて大きい福音であり、兒童教育にも好影響を及ぼし増産に一役勤めてゐる譯であるから、各家庭では厄介視せず兒童に協力して永く實行することが望ましい

# 体位も向上 花柳病無し

## 平・石城の壯丁檢査終る

戰時下にたのもしくも力強く執行された平市並に郡下〇〇〇名の今年度壯丁檢査は去月二十九日より昨十二日まで十五日間平市公會堂で執行官福本大佐係りで學科、身体の檢査を行つたが檢査終了の昨十二日午後一時より福本大佐の講評、訓示があつたが大体次の通りであつた

さすがに時局認識してをるだけに花柳病者は幸ひ一名もなく一般に体位は以前より相當向上してをるだが未だトラホーム

# 小名濱局 集配復舊

小名濱郵便局では集配人不足で一日一回も配達が行渡らぬ場所もあり、急用の返書を待つものは態々郵便局迄押掛けて手紙を請取つてゐた狀態に局員自体も利用者も困惑しきつてゐたが、木村局長の努力が酬いられ漸くこの程集配人定員十三名が勢揃ひしたので平常に復し一日二回配達が實施され町民の愁眉を開いた

# 少女隣組

## 一錢貯金を寄附

小名濱町中通り七組國民校生徒馬目ヒロ子、馬目菊子、櫻井俊子の三人は申合せて一錢貯金を初め纏つた金參圓を十日銃後奉公會へ寄附した

# 沿岸漁業の振興策に 石灰草類を除去

## 四倉で岩礁面搔破講習開く

石郡七濱の岩礁面を搔破しこれに依つて岩礁面へ優良海草や貝類を附着蕃殖させ、同時に魚族の棲息も誘致し沿岸漁業の振興を圖る目的の下に農林省水産局主催の『岩面搔破講習會』は今十三日から明十四日に亘り四倉海岸の岩礁地帶で行なはれる

本省からは北村、伊藤兩技術員が機械機具類を所持して來町縣水産課からは五十嵐技師、川上技手等臨席

本縣各漁村から參加した講習生一同に對し潛水機を利用して岩盤を調査し或ひは機具類を使用して岩礁を搔破するなど二日間に亘つて實演する

今度の講習に依つて魚貝草の蕃殖に障ある石灰草類が一掃される結果、本縣の沿岸漁業に相當大きい效果を齎らすものと期待されてゐる

# 愛郷心に燃える 古市氏の美擧

## 亡母供養に多額の寄附

石城郡草野村大字馬目出身の東京市品川大井町に紙器製作所を經營する古市久一氏は亡母トクヨさんの死去に際し供養のため郷土の青年學校建築費に千三百圓寄附した外各種團体へ五百三十圓寄附、この外居住地大井町にも多額の寄附をしてゐる

同人は先にも母校へピアノ購入費三百圓電氣蓄音器購入費二百五十圓、樂器費など多額の寄附をしてゐる愛郷觀念の强い事業家で全村民から感謝されてゐる

【寄附金】△千三百圓青年學校新築費△百五十圓、母校教育基金へ△五十圓、草野銃後會△五十圓、草野警防團△三十圓、郷軍分會△三十圓、警防團馬目分團△三十圓國婦馬目班△三十圓、馬目青年分團△三十圓、馬目念佛講△三十圓、絹谷念佛講△三十圓、北神谷念佛講△二十圓、水品念佛講△五十圓絹谷分教場

# 特別執行

## 四倉署科料五件

四倉警察署では十一日管內全般に亘つて特別執行を行なつた結果自轉車違反、暴利取締違反で五名が槍玉に擧げられた

◇自轉車違反…四倉町新町高橋勝雄（二三）大浦村渡部粂治（四一）大野村玉山、山ノ井庄造（二八）

◇暴利違反…四倉町驛通玉屋商店、仝本町佐原[illegible]

# 隣保館に 氏神遷宮

## 今日十時執行

平市社會事業助成會が經營する隣保館に神棚が無く幼兒の敬神思想鼓吹に遺憾とされてゐたが、今年の入館兒父兄が醵金し神棚を新調今十三日午前十時から青沼市長初め關係者一同參集氏神樣の遷宮式を擧行した

# 住宅營團建築

## 平、郡山兩市割當明年か

住宅營團仙台支所初の住宅建設戸數は一千戸と割當が決定、今年は住宅難の甚しい仙台市盛岡市及宮城、青森兩縣に建設する事になつたと報ぜられてゐるが來年あたりは郡山、平地方にも割當られる模樣で住宅難に喘いでゐる平地方の借家人にとつては正に旱天に雨雲の出現を見たやうに期待をかけてゐる

平市には現在貸家の營業をやつてゐるもの及び非營業を合して大小約千五百戸の貸家があるものと推定されて居り、家賃は最低二、三圓から最高五十圓位迄であるが、二十圓以上の家賃に入るものは俸給生活者には稀であつて、四十圓五十圓といふ家賃はほとんど醫師或ひは辯護士等である、現在どうして平地方が住宅難になつてゐるかといふと役所が増え工場が新設されたわけでなく人口が増加してゐるわけでもないのだから好景氣のため從來間借りをしてゐた人が一戸をかまへるといふやうになつた所に原因を求める以外に住宅難の原因は考へられぬ、まだ現在はそこ迄は行つてゐないが近い將來には商家方面に相當空家が出て來るのではないかと見てゐる向もある、現在平市の要求してゐる住宅は俸給生活者向の十圓から十五圓程度の貸家で約百戸位と見られてゐる、而して從來の舊貸家は他都市よりも遙かに安い儘統制令でおさへられ、新築家屋の中には他都市並み或はそれ以上のものもあり借家人にとつてはこの家賃のデコボコが喜悲劇を生んでゐるといふのが平地方の實狀である

# 門馬兵長

## 十五日無言の凱旋

大浦村上仁井田陸軍兵長門馬東君の遺骨は十五日午後五時五分四倉驛着の列車で懷かしの我が家に無言の凱旋する

# 柔劍道講習

## 夏井、四倉兩校で

石城第四區教員の柔劍道講習會は十六日より三日間夏井、四倉の兩校に開催する

柔道講師は江名校賀澤、錦校鴉沼の兩訓導、劍道講師は大野校根本、四倉校鈴木の兩訓導で參加訓導は百余名に上る

# 家郷戀しく

## 主家の窃盜自首

昨十二日夜平署へ一青年が『悪いことをして來ました』と自首して來た、右は信夫郡杉妻村大字大平寺字古内住所不定無職宍戸五郎（二九）で同人は福島商業學校を卒業後、身をくずして各地を轉々としてゐるうち昨年五月十日東京市城東區南砂町富製鋼所に勞務係として雇れ、本年四月十八日朝同會社事務所にあつた金庫を破つて現金五百六十圓を窃盜し逃走、東京、横濱方面で遊興、この程平地方に流れ込んだが殆んど消費して金もなく會社や我が家にも歸れず途方に暮れて自首したものである

# 持逃げ犯人

## 公園で捕る

平署では昨十二日平市松ヶ岡公園を徘徊中の擧動不審な青年を檢擧した、取調べの結果山形縣最上郡稻船村生れ住所不定無職吉田榮（二一）で同人は去る五月三十日東京市大森區新井宿七丁目十神保電氣製作所職工に雇れ中同僚の寺島新造さん外三名から現金七十圓と洋服、靴等身仕度一式（百五十圓相當）を盜み平地方に

# 託兒所開く

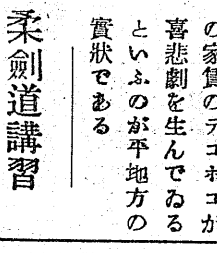
## 收容兒百五十名

平市では今十三日から農繁期保育所を第四國民學校、中鹽分教場、上平窪酢釜觀音寺の三ヶ所に開設した、收容人員百五十名だが第四校並に中鹽分教場が十五日より農休みになると更に託兒者が殖える豫定である

# 平市慶弔錄

【婚姻】△平市字舊城跡十一番地佐久間平太郎（六五）さんと新潟縣北蒲原郡五十公野村大字上新保熊谷りく（六一）さん△東白川郡鮫川村大字渡瀬字古生野岩本重雄（六五）さんと平市田町三十五番地鈴木きみ（五〇）さん

【出生】平市字三町目三十七番地芹澤政一長女典子さん

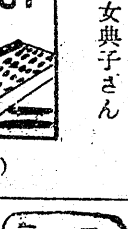


# 商況

（十三日）

| 【野菜】 | 高 | 安 |
|---|---|---|
| 筍 | 一一〇 | |
| 大根 | 三〇 | 二〇 |
| サヤ豆 | 九〇 | |
| 玉菜 | 三二 | |

| 【鮮魚】 | |
|---|---|
| イワシ | 五、八 |
| アジ | 二〇、〇〇 |
| サバ | 一〇、〇〇 |
| イナダ | 三〇、〇〇 |



# 天氣豫報

今晩　北の風曇り勝ちの天氣です

明日　北の風後南西の風晴れたり曇つたり

潮滿（六月十四日）前六、10　後八、四五

干潮　前1、00　後1、10

---

三井生命

三井生命保險株式會社

代理店 （久） 釜屋商店

保險部　振替東京七〇四五

本年度の貯蓄目標百卅五億圓

「聖戰へ」

「我も貯蓄で驀ら」

翼賛貯金掛金表

| 滿期拂渡金 | 每月掛金表 三年 | 五年 |
|---|---|---|
| 壹百圓ニ付 | 二、六六 | 一、五四 |

右ノ倍數ニテ如何程デモ差支ナシ

有限責任信用組合

平庶民金庫

謹告

今般電話統制實施ニ當リ電話營業人トシテ遞信大臣ヨリ認可相成候ニ付此段謹告仕候

追テ電話賣買ノ仲介、擔保、金融貸、電話等一切六月十六日ヨリ營業組合事務所ニ於テ取扱フベク候

遞信省公認

平電話營業組合事務所

平市二丁目七（日東商會內）　電話四　八番

小野常次

三井富吉

井上貞治郎

長島菊苗